

あ と が き

編集者交代に際して、多少長い「あとがき」を書くことを駄弁も含めて許して頂きたいと思う。

JNDCニュースの編集・発行の仕事は創刊号から先号の第26号まで、数名の編集委員が居られたが、一貫して中心的かつ実質的工作をして来られたのが本号の巻頭言を書いて頂いた中嶋龍三氏である。そして、資料リストの作成を含む実務は、前半を田中姚子さん、後半を石原待子さんが担当して来られた。このたび都合により中嶋氏が東海研究所に出張される機会が減る結果となったために、誠に止むを得ず下記3名が編集をお引受けすることとなった。ここに、初代編集者に誌上で拍手を送らせて頂く次第である。

はからずも以前に委員会の席上で本誌に編集者名の無いことなどを問題にした手前もあり、下記の通り編集者名を入れることとした。何事も初代は特別であるが、本誌編集者の二代目以降は定期的な交代検討の習慣をお願いしておきたいと思う。

編集者を引受けるに当って、「巻頭言などやめてしまえ」、「情報公害と言われる程だから、なるべく手を抜いて必要最低限のニュースにしる」との、担当者の労を軽減する配慮を含んだ助言を下された方があり、卓見と受取ったのだが、他方、巻頭言しか読まないという人をたまたま三人まで知っているのである。この様なことから考えて、今後当分の編集方針としては、特に意欲を出すという姿勢ではなく、読者の支持の自然の方向に任せる感覚を持って行くことにしたいと思う。本号から表紙の色を変え、表紙の裏面に毎号共通的な案内記事を入れることにしたが、今後共全体のスタイルなどにはこだわらないことにしたい。例えば、巻頭言も原稿が得難い時には省くこともあり得るし、投稿さえあれば、これまでのスタイルに無いような資料や意見などを掲載することなどがあってよいであろう。折にふれて読者より御意見が頂けることを切望している。(更田記)

編 集 者

更 田 豊治郎

菊 池 士 郎

石 原 待 子